

おおつかのまどて  
柏市 大塚野馬土手

江戸幕府直轄の小金牧(こがねまき)は、現在の流山市から千葉市まで南北に広大な面積を持ち、高田台・上野・中野・下野・印西の五つの牧(まき)で構成されていました。

牧では馬が放し飼いにされていたので、野犬などの侵入や馬が逃げるのを防ぎ、また牧内で馬を誘導するために「野馬土手」と呼ばれる土手や「野馬堀」(のまぼり)と呼ばれる堀が築られました。県内では現在でもその一部を見ることができます。

今回は、柏市十余二(とよふた)字中大塚に残る野馬土手と野馬堀の調査を行いました。これらは小金牧の一つである高田台牧(たかだだいまき)のものです。高さは2.5mから3mもあります。

千葉県には小金牧のほかにも佐倉牧、嶺岡牧が置かれ、静岡の愛鷹牧(あしたかまき)を除いて、幕府直轄の牧が集中する特色のある地域でした。県内の牧について詳しく知りたい方は、当財団調査報告書第555集「房総の近世牧跡」をご覧ください。



樹木を伐採したところ。土手(大)、堀、土手(小)が見える



土手(大)の断面の調査



堀の調査